



5/24 祝！来場者300万人！

道の駅「恐竜渓谷かつやま」の来場者が300万人に達し、節目を祝う記念セレモニーが開かれました。

記念すべき300万人目となった名古屋市から来た4人家族には、道の駅オリジナル商品や特産品が贈られました。



5/25 絵本を通じたコミュニケーション

市内で子育て支援などに取り組んでいる「ほのぼの子育て はるひな」がちょいチャレ応援事業を活用し、親子交流イベントを行いました。

参加した親子は、FBC福井放送の松田アナウンサーによる絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通して、あたたかい時間を過ごしました。



5/31 出水期に備えて

水害の発生しやすい梅雨や台風の季節を前に、弁天緑地で水防訓練が実施され約90人が参加しました。

複数の工法で土のうを積み上げる訓練や土砂に埋まった人を救出する埋没訓練などが行われ、水防体制の充実強化に取り組みました。



5/27 ご寄贈ありがとうございます

女性の地位向上などに取り組む社会奉仕団体「国際ソロプチミスト福井」から、20冊の児童図書を寄贈いただきました。

地域の未来を担う子どもたちに良い本に親んでもらいたいと平成27年度から毎年寄贈いただき、累計で357冊になりました。

「奥越地区基幹相談支援センター」を設置しました



「奥越地区基幹相談支援センター」とは

障がいのある方やその家族が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、令和8年4月に勝山市と大野市が共同で設置した機関です。(委託事業者：社会福祉法人大日園)
地域の障がい福祉事業所や医療・教育・就労支援機関などと連携し、障がい者福祉を地域全体で支える体制を強化します。

【主な活動内容】

- ・相談支援専門員への支援
- ・人材育成
- ・地域づくり推進

障がいに関するご相談は、引き続き福祉課(☎87-0777)または担当の事業所へお気軽にお寄せください。

職員の方に Interview：「地域で自分らしく暮らすために」

基幹相談支援センターが地域の相談支援専門員や相談支援事業所をバックアップすることは、地域全体の相談支援体制の底上げにつながり、障がいのある方がどの事業所でも、誰に相談しても質の高い支援を受けられる環境が整います。

障がいのある方やその家族が地域の中で自分らしく安心して暮らしていけるよう、相談支援専門員の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

JCHO-Column

遠隔画像診断

JCHO福井勝山総合病院
放射線科診療部長 植松 秀昌



近年、医療の分野ではインターネット技術の発展により、「遠隔画像診断」という新しいしくみが広がっています。これは、病院で撮影されたCTやMRIなどの画像を、離れた場所にいる放射線診断専門医が確認(読影)し、診断を行うシステムです。

これまで画像診断は、撮影を行った医療機関の医師が担当するのが一般的でした。しかし、放射線診断専門医が常勤として勤務していない病院もたくさんあります。当院では、常勤の専門医1人に加え、大学から非常勤医師(半日×週2回)の応援を受けて平日の日中の時間帯中心に読影を行っていますが、たとえば、夜間や休日でも遠隔画像診断システムを利用して専門医による読影が行えるようになれば、担当医師の読影に加えて放射線診断専門医が画像を確認することで、時間帯に左

右されにくい診断体制づくりに役立つと期待されています。患者さんにとっても、都市部の大病院への移動の負担を減らしつつ、地域の病院でより安心して検査、医療を受けられるという大きなメリットがあります。

現在、当院では商用の遠隔画像診断システムは導入していませんが、今後、必要性が高まった際にはこのシステムの活用も検討していく予定です。これからも、地域の皆さまに信頼される医療を目指し、日々取り組んでまいります。



遠隔画像診断のイメージ

地域の病院と都市部在住の専門医がインターネットでつながり、画像を共有して診断します